

北海道武藏女子短期大学紀要第35号正誤表

都市型公共図書館における来館者による図書館利用行動

露伴<音幻論>考

	誤	正	誤	正
P 25 下から 2 行目	サービス関係職(20.7%) → 事務関係職(20.7%)		P 40 後ろから 2 行目	
P 35 9 行目	休日で <u>38.3%</u> であり、 → <u>38.2%</u>		P 92 後ろから 1 行目	鷗 → 鷗
	カナダ詩人訳詩集Ⅲ		P 98 前から 9 行目	ネンゴ → ネンゴロ
P 162 上から 9 行目	魚師 → 漁師		P 103 [欄外] きな……置韵 → [前 1] きな……置韵 ⁽¹³⁾	
P 13 15 行目～16 行目	痙攣するデジャ・ビューで読む小津安二郎－		P 104 前から 12 行目	何年菩提 → 何年菩提
	誤		P 111 前から 5 行目	ひとのが → ひとが
	小津映画の中で北海道は二回だけ登場する。『東京暮色』の室蘭と『小早川家の秋』(一九六一年)の札幌である。いずれもロケではなく、行きたくはない場所として出てくる。		P 122 後ろから 3 行目	(注 (51)) → (注 (49))
	正		P 132 前から 11 行目	t 郡 → t 群
	小津映画の中で北海道は三回登場する。『出来ごころ』(一九三三年)の根室、『東京暮色』の室蘭、『小早川家の秋』(一九六一年)の札幌である。いずれもロケではなく、行きたくはない場所として出てくる。『出来ごころ』ではすったもんだの末、息子・富夫(突貫小僧)の入院費を工面するため、喜八(阪本武)は北海道根室の漁場へ向かう。「北海道くんだり」という台詞も登場する。		後ろから 3 行目 「舌本声」 → 「舌中声」	
			P 135 後ろから 2 行目	照 → 昭

痙攣するデジャ・ビューで読む小津安二郎－

P 13 15 行目～16 行目

誤

小津映画の中で北海道は二回だけ登場する。『東京暮色』の室蘭と『小早川家の秋』(一九六一年)の札幌である。いずれもロケではなく、行きたくはない場所として出てくる。

正

小津映画の中で北海道は三回登場する。『出来ごころ』(一九三三年)の根室、『東京暮色』の室蘭、『小早川家の秋』(一九六一年)の札幌である。いずれもロケではなく、行きたくはない場所として出てくる。『出来ごころ』ではすったもんだの末、息子・富夫(突貫小僧)の入院費を工面するため、喜八(阪本武)は北海道根室の漁場へ向かう。「北海道くんだり」という台詞も登場する。